

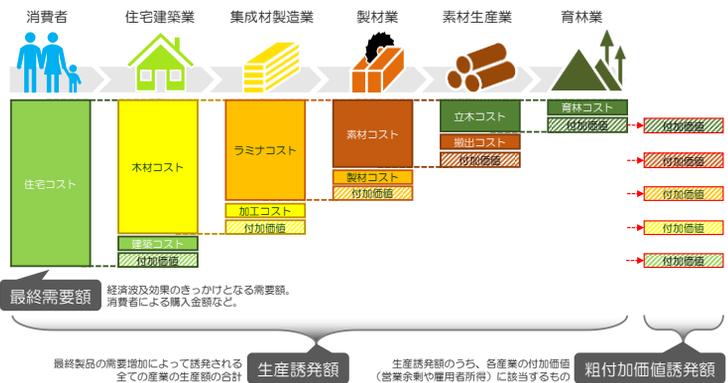
産業連関表から見える木材の世界

■ 産業連関表で経済を俯瞰する

産業連関表は、特定の国や地域の経済における産業間の相互依存関係を示す統計表で、生産活動のつながりから経済影響を分析できます。

また、**経済波及効果**は、産業連関表を使って計算できる経済影響指標で、製品需要をきっかけとして誘発される全ての産業の生産を足し合わせた**生産誘発額**、そのうちの付加価値の増加分に相当する**粗付加価値誘発額**などがあります。

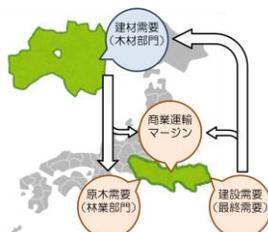
木材の利用は、どこかの林業の生産を促し、森林経営に貢献できると考えられます。産業連関表は、そんな効果の定量化に役立ちます。



(図1) 木造住宅の購入に伴って林業に生じる経済波及効果のイメージ▲

■ 都市の木材利用の影響力の分析

東京の木造駅舎改修による経済波及効果を、丸太生産（東京）、木材加工（福島）およびその他の3地域を連結した産業連関表を使って分析すると、東京の地域材の利用事例にも関わらず、木材調達によって生じる効果の3分の2は都外に生じたことが分かりました。**都市の木材需要が、加工地を中心とした域外に対しても大きな効果をもたらし、国内全体の経済活性化に貢献すること**を表しています。



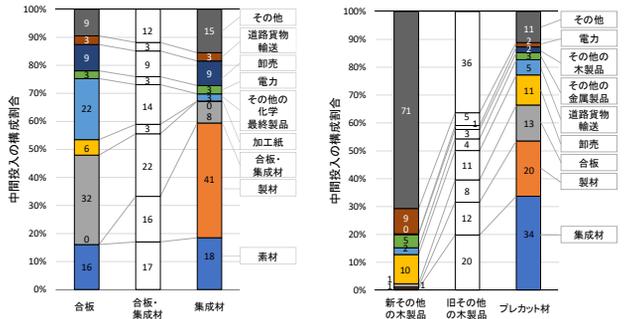
(図3) 駅舎外観と調達経路に従った経済効果発生概念図▲
(表1) 地域ごとに発生した経済波及効果▼

経済波及効果(万円)	既存表		拡張表		
	東京	東京	福島	その他	合計
最終需要額 (A)	582	582	715	0	1297
生産誘発額 (B)	883	1013	1262	752	3027
粗付加価値誘発額	522	596	514	358	1468
生産誘発係数 (B/A)	1.52	1.74	1.76	-	2.33

■ 産業連関表の改良による分析の精緻化

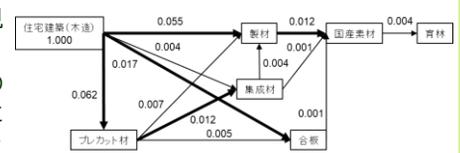
木材産業について、これまでよりも詳細な分類で分析するため、聞き取り等に基づく産業連関表の改良を行い、合板、集成材、プレカット材を個別に分析可能な木材産業分析用産業連関表を開発しました。

これによる分析の結果、木造住宅の需要に伴う経済波及効果のうち、木材のサプライチェーンによって国内林業に波及する生産誘発係数は、最終需要額の大きさに対して0.4%であること等が分かるようになりました。



(図4) 新たに可視化した木材部門▲

(図5) 木造住宅のサプライチェーンと経済波及の様子▶



■ 研究から分かったことと今後の課題

木材利用の促進による林業・木材産業の活性化のため、森林資源の豊かな地方は、都市の需要に対して積極的に販売することが有効であると分かりました。また、木材利用による林業への波及効果を高めるためには、木造住宅の国産材使用率や非木質分野の木材使用率の上昇が鍵となります。今後、更に手法の改良と、事例の蓄積を行います。

森井 拓哉 (林業経営・政策研究領域)



国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所